

《シンポジウム》

19世紀文学における田舎の表象

2019年1月26日(土) 13:00-18:00

京都外国語大学1号館7階171教室(小ホール)

(申込不要・入場無料)

産業化の進展とともに巨大な人口を集める大都市が生まれ、

帝国主義の欲望がはるかなる植民地をめざした時代、

文学の関心はなぜ〈田舎〉へと向かい、作家たちはそれをどのように描いたのか――

【発表者】

村田京子 / フランス文学 (大阪府立大学)

「ジョルジュ・サンドの田園小説における「田舎」の表象 ― 農民像を中心に」

奥山裕介 / デンマーク文学 (大阪大学)

「世界を迎え、世界を見送る ― ヘアマン・バング『路傍にて』における「駅の町」の近代」

浜本隆三 / アメリカ文学 (甲南大学)

「幻想の西部 ― マーク・トウェインが描いた田舎の虚像と実像」

【コメンテーター】

磯崎康太郎 / ドイツ文学 (福井大学)

田口紀子 / フランス文学 (京都大学)

19世紀文学における 田舎の表象

ジョルジュ・サンドの田園小説における「田舎」の表象 — 農民像を中心に

村田京子

ジョルジュ・サンドの90篇以上ある作品の中で、『魔の沼』『愛の妖精』など田園小説が日本でも有名である。本発表では、サンドの田園小説において、「田舎」がどのように表象されているのかを検証する。まず、「リアリズム文学の祖」とされるバルザックの作品との違いを明らかにする。とりわけ、サンドの民俗学者的な側面に注目していきたい。次に、サンドの作品は、農民の牧歌的な恋愛を歌った「パストラル」や「ベルジュリー」のジャンルには属さず、サンドが現実の農民の実態に即したリアリストであることを浮き彫りにする。また、農民自身が語り主体となっていることも、サンド作品の特徴である。最後に、サンドの理想主義的側面に焦点を当て、『ジャンヌ』『魔の沼』を手がかりに、「文明人」（＝ブルジョワ階級）と対峙する無垢な「原初の人間」としての「農民」像を検証し、サンドにおける芸術家の使命および「田園小説」の意味を明らかにしていきたい。

《発表要旨》

【第二発表／デンマーク文学】

世界を迎え、世界を見送る — ヘアマン・バング『路傍にて』における「駅の町」の近代

奥山裕介

1857年、デンマークは400年にわたりバルト海を航行する船舶に課していたウーアソン海峡通航関税 Oresundtolden を撤廃するとともに、地方都市のツンフト特権を破棄する営業自由法 Næringsloven を制定した。こうした中世的諸制度の解体にともない、世界規模の交易ネットワークへの参加が果たされ、運輸交通インフラの整備、人口の流動化は、1864年の第二次シュレースヴィヒ・ホルシュタイン戦争での敗北を経ていっそう加速する。

敗戦の沈鬱と産業化の活気が交錯するこの時期には、「駅の町 Stationsby」と呼ばれる地方の鉄道沿線に新興集落が成立し、都市と地方の間文化的交通の結節点をなした。北欧リアリズム文学の隆盛期に登場したヘアマン・バングの『路傍にて』 *Ved Væjen* (1886) は、「駅の町」の駅舎で生涯を送る一女性の憧れとメランコリーを中心に据えた小説である。研究発表では、「駅の町」成立期の都市と地方をめぐる諸状況とバングのテキスト世界の連関を確認し、周縁ヨーロッパ世界における近代の徴標に光を当てる。

【第三発表／アメリカ文学】

幻想の西部 — マーク・トウェインが描いた田舎の虚像と実像

浜本隆三

19世紀のアメリカにおける西部フロンティアは、自営農民を育て、移民を引き寄せて、個人主義や民主主義の基盤になったとも解釈される、いわば「アメリカ的価値」の源泉であった。ただ、フロンティアはつねに、東部（都市・文明）の「目」を通して表象されてきた。19世紀アメリカを代表する作家、マーク・トウェインも、東部の視点からフロンティアを描いた一人である。

発表ではまず、トウェインが西部と東部、それぞれのイメージを巧みに使い分けられる作家であった点を確認し、そのうえで、ミシシッピ河畔を舞台にした小説『ハックルベリー・フィンの冒険』と田舎町（スモール・タウン）を舞台にしたトウェイン晩年の短篇「ハドリバークを墮落させた男」を取り上げて、そこに描かれた田舎表象の虚像と実像を考えたい。発表を通して、幻想の田舎像を追い求めるトウェインの姿勢が、同時代のアメリカ社会と重なる点を指摘したい。

【会場アクセス】



- 阪急京都線利用の場合は、「西院」駅から西へ徒歩約15分。または市バス「西大路四条」(西院)から3・8・28・29・67・69・71系統に乗車、「京外大前」で下車。(所要乗車時間約5分)「梅田」駅から「西院」駅までは約40分。
- JR線利用の場合は、「京都」駅烏丸口から市バス28系統、八条口から市バス71系統に乗車、「京外大前」で下車。(ともに所要乗車時間約30分)
- 地下鉄烏丸線利用の場合は、「四条」駅で下車、市バス「四条烏丸」から3・8・29系統に乗車、「京外大前」で下車。(所要乗車時間約15分)
- 地下鉄東西線利用の場合は、「太秦天神川」駅から南へ徒歩約13分。

